

(1)概要

日時	令和4年7月7日(木)13:30~15:40	
場所	大阪府立寝屋川支援学校(視聴覚室) 又は情報機密が確保できる場所 ※集合開催、web 開催併用	
出席者	会長	辻 行雄(L's College おおさか)
	副会長	富永 光昭(国立大学法人 大阪教育大学)
	委員	山崎 淳(寝屋川市立梅が丘小学校)
	委員	藤本 財久(寝屋川市立あかつき・ひばり園)
	委員	川橋 健太郎(グローバルコミュニティ株式会社)
	委員	牧添 智美(寝屋川支援学校 PTA 代表)
	校長	阪本 友輝
	准校長	藤田 太朗
	事務局	
	事務部長	石川 昌義
	教頭	吉村 晋治 (事務局長)
	教頭	豊島 秀多
	首席	角尾 将司
	首席	西田 宜弘
	首席兼バス部長	坂田 真一
	首席兼教務部長	東川 彩
	指導教諭	日置 節子
	小学部主事	亀村 尚希
	中学部主事	井戸 久美
	高等部主事	西橋 聖次
進路指導主事	坂元 久美子	

(2)議事録

内容	
① ICT を活用した授業の取り組みについて	
② 防災の取組について	
③ 採択教科書について	
④ 令和3年度卒業生の進路状況について	
⑤ 令和4年度学校経営計画及び学校評価について	
議事録	
阪本校長	今年度、3年ぶりにプール学習の再開。 先週末、小学部の修学旅行。暑かったが、熱中症対策を行い、児童全員体調を崩すことなく無事行うことができた。 現在、熱中症対策としてマスクをはずすよう指導をしている。一方で大阪府で感

<p>日置指導教諭</p>	<p>染者が増加傾向で、他校では、学級閉鎖もある状況。本校でも熱中症対策をおこなないながら、感染症対策を継続していく。校内には七夕飾り。子どもたちの短冊を読むと、2年間コロナで窮屈な思いをしていると感じた。学校としてかなえられる願いはかなえてあげたい。</p> <p>【ICTを活用した授業の取り組みについて。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の人数分の iPadの整備が完了。児童生徒が使う環境が整う。 ・教職員、児童生徒に一人一つの Google アカウントが配付。 ・ICT活用が進み、先日タイの支援学校とのオンラインでの交流を本校でも実施。 ・Google クラスルームを使ったやりとりプラン。 Google クラスルームを使って、夏休みの出来事を写真やコメントでやりとりする。 ・ICT活用について、その学齢で使う必要はあるのか。何のために使うのかという声もある。「写真を使ったほうがわかりやすく伝えられる」「離れたところでもやりとりができる」など、ICTの利便性を理解しながら ICT を使うことが目的ではなく、自分のツールとして使えるようになることを目指す。
<p>角尾首席</p>	<p>【防災の取組について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職が不在の場合などに備えて、災害時に決断をくだす際の意味決定順位を決めている。 ・校外に出る学習計画をたてる際に、実施計画に行先での避難場所を記載するようにしている。 ・防災教育として、防災備蓄食を授業で活用し、食べる経験。体育館での1泊宿泊体験を行っている。 ・防災備蓄食について。期限の切れた飲料水は、飲料以外の用途で使うために継続して保管。昨年度本校で断水が起きた時に活用した事例がある。 ・各家庭に緊急時個人持ち出し袋の準備をお願いしている。 ・災害時の引き渡しシミュレーションの実施。シミュレーションを継続することで、保護者の意識も高まっている。「またか。」と思われるくらいを目指して実施していく。 ・昨年度寒い中での、緊急時シミュレーションを実施。避難時の寒さ対策についてどうするかなどもシミュレーションの中で検討していった。 ・災害情報に対する学校の対応について。 市町村より避難指示にあたるレベル4が発出された場合の対応について。 避難指示は1部の地域に対して発出されるもの。 学校としては、情報の内容の把握。校区内のハザードマップを確認して対応を考える。注意喚起を e メッセージで行う。対象地域については登校を控えていただくようお願い。 避難指示が広範囲に及ぶ場合には休校の判断になることも。 ・JR 学研都市線の計画運休発表時における対応方針 子どもたち、教職員が安全に帰れることをふまえて、休校の判断、下校時刻の

	設定を行っている。
東川首席	<p>【採択教科書について】</p> <p>今年度採択の教科書一覧。</p> <p>毎年、一般学校で使われる教科書、文科省発行の☆本、文科省が認定している9条本、それ以外の本より、児童生徒に応じた教科書を選択し、申請して採択される。</p>
富永委員	<p>防災への取り組みについて。</p> <p>教員側だけではなく、子どもたちへの取り組みが大事。子どもたち、保護者の思いや考えを防災教育に反映していくことが大切。防災備品を子どもたちに用意させる、ハザードマップを調べる学習、校内の危険箇所の確認などの授業が想定されるが、寝屋川支援学校での子どもたちへの防災教育について実践例があれば教えていただきたい。</p>
角尾首席	<p>防災備蓄食を食べる経験。iPad で校内にある危険箇所を写真にとる活動などに取り組んでいる。</p>
富永委員	<p>防災教育については ICT の活用とも関連している。ポストコロナで新しい生活様式となり、色々な工夫が求められる。防災科のある高等学校とオンラインで交流するなど、他校との連携も進めていけるとよい。</p>
坂元 進路指導主事	<p>【卒業生の進路状況について】</p> <p>資料に沿って説明。</p>
阪本校長	<p>【学校経営計画及び学校評価について】</p> <p>昨年度より、今の様式に変えており、重点項目にキャッチフレーズをつけている。学校経営への積極的な参画をしてもらうためキャッチフレーズは教員より募集して考えてもらっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学部の児童生徒との交流を進めている。学部を超えて、高等部の生徒が小学部の児童に教える経験など、今年度深めて広げていく。 ・シラバスの再編。高等部でも小学部のシラバスが使用できるように整える。 ・個別の指導計画が学部ごとに違ったが、統一形式を考えている。 ・夏休みに、家庭と学校をオンライン上でつなげる。ICT を使うことが目的ではなく、ICT をツールとして、いかすことを目標としている。 ・経験の少ない教員の支援として、他学部との交流を実施。 ・精神の教育相談を行ってきたが、発達に関するドクターにも来ていただき、相談の場を設ける。専門的な指導支援を進めていく。 ・寝屋川公園の清掃活動を行う。保護者と一緒に落ち葉掃除。 ・バスがどこを走っているかがわかるシステムの導入。(バス見守りソリューションシステム)

	<p>・ペーパーレス化。会議資料についてデジタルデータで。</p>
藤田准校長	<p>【高等部の学校経営計画について】 パワチャレタイム。更衣後10分程度。 以前は学年単位で取り組んでいたが、自立活動の6区分27項目を意識して課題設定。 早期から職業観をもてるよう1年生から校内実習を3日間取り入れる。 寝屋川公園内で、森の展示室。本校の児童生徒の作品を展示。一般の方も、ゆっくり眺めている。作品を通して、地域との関係作りができています。 寝屋川公園のプランターの花の苗植えも行っている。</p>
山崎委員	<p>寝屋川市の小中学校も3年ぶりのプール。当たり前のことを当たり前に行えることが子供たちの喜びになっている。本校での宿泊学習も子どもたちがとても楽しんでいました。子どもたちの笑顔が戻りつつある。 ICT 活用については地域の学校でも取り組んでいる。支援学級の児童が堪能に使いこなしている。児童にとって有効だと感じる。 防災について。備蓄の水を飲料水以外に使う発想がなく、勉強になった。 学校経営計画にキャッチフレーズをつけることで、教員が学校経営に参画することを引き出している。先進的な学校経営計画だと感じる。</p>
藤本委員	<p>学校経営計画の知的障がい教育の専門性に関連して。あかつきひばり園でも就学前での基礎的な生活形成。障がい特性をふまえた支援などに取り組んでいる。寝屋川支援学校での取り組みを参考にしていきたい。 防災の取り組みについて。職員で JR を使っているものが多いので、計画運休発表時の対応について参考にしたい。</p>
川橋委員	<p>企業の中でも、障がいのある方の法定雇用率が上がる中、多様性を受け入れるように向かっている。寝屋川公園の清掃については、とてもいいと感じた。</p>
牧添委員	<p>わが子も Google クラスルームについて楽しみにしている。デイサービスにいて、保護者が仕事にいていないなどで、取り組みに参加できないと残念。 学校でアルファベットを学習しているが、本人にアルファベットを書くことの難しさがある。書くことではない方法(キーボードを押すなど)をお願いして、対応してもらって感謝している。PECS を保護者も活用できるように教えてほしい。</p>
日置指導教諭	<p>クラスルームの取り組みについて、子どもが投稿できる期間は、長い期間を設定する予定。詳細が決まったらお伝えする。</p>
牧添委員	<p>防災について。全体シミュレーションを極寒の時期に実施したことを聞いた。カイロの備蓄を昨年度お願いされた。建物に入れない場合は、テントの備蓄も必要ではないか。毎年少しずつ備蓄物品を購入していくとよい。</p>

	<p>漏水時、保護者迎えができない場合、教職員も帰れないので、そこも考えていかないといけない。</p> <p>教科書は、毎年新品の状態を持ち帰ってくる。他の子も廃棄していると聞く。子どもに見せても嫌がる。もったいないと感じる。</p>
<p>阪本校長</p>	<p>シラバスと教科書を連動させていく。☆本の導入。教科書を使った授業を考えていく。教科書を使った授業がなじまない子どもがいることも実態としてある。教科書をいかに活用していくかは難しい状況。高等部は、子どもの実態に応じた教科書を使っている。保護者から、そのような意見をいただくことができ、ありがたい。学校としても考えていきたい。</p>
<p>富永委員</p>	<p>教科書について。特別支援学校は子どもたちの像が様々。教科書の採択は難しい。教科書をデジタル化すると生徒も活用しやすい。</p> <p>PECS について。保護者の方も利用したいという声があることが大事。学校では教員のツールという考え方がある。保護者もツールを活用できると、家庭地域において、子どもたちの自立につながっていく。ICT のツールについて、母が学び、家でも使うことで、父、祖母も使うようになっていった事例もある。</p> <p>学校経営計画について。キャッチフレーズを取り入れられてわかりやすく、センスがある。先生方発で作られたことが素晴らしい。</p> <p>ICTの活用。興味深い実践と感じた。ICT は知的障がい子どもたちも含め、すべての人たちにとって、必要なツール。感覚にアプローチすることも重要。それとICTの活用をどう合わせていくのかが大事。</p> <p>防災の取り組みについて。防災は合理的配慮の観点に入っている、命を子どもたち自身が自分で守れる環境をつくるのが一つのポイント。学校として防災の環境を作るだけではなく、子どもたち自身が防災について学ぶ機会をつくるのが重要。</p>
<p>阪本校長</p>	<p>本日頂いた、様々な視点を取り入れて学校運営を行っていく。</p>
<p>吉村事務局長</p>	<p>第2回 11月10日(木) 13:30~15:30 本校視聴覚室にて</p>